

バスの死角について

～『死角』を知っていただき事故防止にご協力をお願いいたします。～

日頃より、西武バスをご利用くださりまして、ありがとうございます。

「発進時の駆け込み乗車」や「すり抜けによる事故」、「車内事故」を防止するための注意喚起の一環として、運転席から見えない『死角』についてご紹介いたします。

車には、運転席から目視で確認できない範囲いわゆる『死角』が存在します。死角の範囲は車の大きさに比例して広がる傾向にあり、バスやトラックなどの大型車両は、乗用車に比べて死角が多く存在しています。その死角を補うため、バスやトラックには多くのミラーが設置されています。特にバスの場合、死角は車外だけでなく車内にも多く存在していることから、車内に6か所（※死角部分5か所）、車外に5か所の合計11個のミラーを設置し、安全確認を行っています。

≪死角範囲 ※一部≫



①死角の全体像(上空から)



②バス前方の死角

**水色の部分は運転席からは直接見えません！
バスに沢山ついているミラーで死角を見ています！
ご覧の通り、沢山の安全確認が必要なのです！**



当社では、日頃より乗務員教育（案内、確認、発進を区切って実施、運行中の※ヒヤリハット映像の有等）を通じて車内外の死角部分の事故を防止するため、「発進時の指差確認（車内よし→左よし→右よし→前よし）」実施を発信し、確実な安全確認を行うための取り組みを強化しています。

※ヒヤリハットとは：大きな事故に至らなかったが、危険を感じた出来事やその気付き

日頃より安全運行に努めておりますが、近年、「すり抜け」や「駆け込み乗車」により、自転車や歩行者等が死角部分に進入し、発見が遅れることで急ブレーキを余儀なくされる事例が発生しています。これにより、車内事故に繋がるケースも見られるほか、運行中における死角に関するヒヤリハット提出件数が増加している状況です。

このような現状を踏まえ、お客さまやバス路線エリアをご利用の皆さま、そして運転士が事故の当事者にならないよう、当社では、死角の啓発ラッピングバスの運行やプレスリリースを通じた周知・啓発を実施してまいります。また、運転士は前方の交通状況だけでなく、車内のお客さまの動向にも注意を払いながら運行しており、車内外の広範囲にわたる安全確認を瞬時に行っています。安全で円滑な運行のためには、皆さまのご理解とご協力が不可欠です。バスをご利用のお客さまが安心してご乗車いただけるよう、下記の注意事項および当社で実施している啓発活動（ドローンによる死角啓発動画等）をご確認いただき、交通事故防止へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《注意事項》

【死角部分の危険な事例】

- ・ 発進しようとするバスに乗車するためバスの前方、直前を通り駆け込み乗車される
- ・ 発進し動き出したバスの車体を叩くなどして出発したバスに乗車されようとする
- ・ 信号待ちやバス停等からの発進時、自転車やバイク等がすり抜けをしてバス前方に出る
- ・ 発進した直後、お席のゆずり合い等をされ車内で転倒される

【安全のためにできること（お客さまへお願い）】

- ・ バスの駆け込み乗車や直前直後の横断は死角等により車内外の事故発生リスクが高まります。
- **駆け込み乗車や直前直後の横断はおやめください。またバスの前方には近づかないでください。**
- ・ 自転車やバイクによるすり抜けが目立っております。死角のため接触のリスクが高まるだけでなく、発見が遅れ急ブレーキを踏んだことで車内事故にも繋がります。場合によっては自転車等の運転者にも責任が生じる場合があります。また、降車されたお客さまと接触する事故も発生しております。
- **すり抜けは大変危険ですのご遠慮ください。**
- ・ 発進時、走行中、停車時の席の移動は飛び出し等によりやむを得ず急ブレーキを踏んだ際に車内事故に繋がります。
- **バスが動いているとき（走行中）は席をお立ちにならないでください。また、バス停停車時は、ドアが開いてから席をお立ちください。**

《当社啓発活動例》

①全従業員向けにドローンを用いて上空から死角の範囲についての動画を作成

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=-tXjtcl49Uo>



②主要駅バス停のビジョンに注意喚起を表示



③バス車内モニターに注意喚起アニメーション動画を放映

